

## 自転車とまちづくりに関する調査研究報告書

### (1) 背景・目的

自転車は、全国で約7,000万台が保有されており、環境・観光・健康など様々な分野でまちづくりへの活用の可能性がある一方、安全利用との両立が課題となっています。

本調査研究は、多摩・島しょ地域における自転車利用状況や先進事例を調査し、今後の「自転車を活かしたまちづくり」のあり方や方法論を示すことを目的として実施しました。



### (2) 多摩・島しょ地域における自転車の利用状況と今後の見通し

- 多摩地域は平坦な土地で走行しやすく、東京圏のなかでも比較的活発な利用状況
- 多摩・島しょ地域住民の半数近くが「週1回以上」自転車を利用
- 少子高齢化で利用者数は今後「通勤・通学」が減少し「高齢者の買い物」が増加

### (3) 自転車とまちづくりの展開方法

#### ① 自転車とまちづくりの留意点

先進事例をもとに、「走行空間」「政策分野」「推進体制」の3つの視点から、10点の自転車とまちづくりの留意点を整理しました。

また、市町村が事業を計画する際に、各留意点を初期から取組拡大期までの時間軸上で整理するためのモデルを提示しました。

	初期期	計画検討・策定期	事業実施期	取組拡大期
<b>A 走行空間</b>	A1 スポットで試行 A2 客観的事実の把握・活用	A3 段階的なネットワーク化		
<b>B 政策分野</b>	B1 目的を絞る B2 分野連携を意識	B3 計画期からの住民参加		
<b>C 推進体制</b>	C1 警察や道路管理者との目的共有	C2 「促進策」と「抑制策」の所掌を分ける	C3 官民実行組織設立と継続的情報発信 C4 政策立案に注力できる体制づくり	

※各実施段階へのプロットは例示

#### ② 多摩・島しょ地域における「自転車とまちづくり」の3つの提言

##### ア 「にぎわいづくり」×「買い物自転車の適正利用」

- 商業施設の至近への駐輪場整備を社会実験として実施
- 交通安全講習の受講者への駐輪場の優先利用権付与など複数の政策面から実施

##### イ 「地域コミュニティの醸成」×「子ども・高齢者の事故削減」

- 学区道路の危険箇所点検のワークショップを交通安全講習に先立ち実施
- 事故数減などの有効性が認識された段階で、通行環境整備などを計画的に実施

##### ウ 「インバウンド観光による産業振興」×「広域での通行空間整備促進」

- ガイドによるサイクリングツアーなどを官民連携で実施し利用者の評価を調査
- インバウンド観光向けに、ルートを明示するサインを統一化・ネットワーク化

## ご当地キャラクターの活用に関する調査研究報告書

### (1) 背景・目的

現在、多くの自治体や民間企業がご当地キャラクター（ゆるキャラ、ご当地ヒーロー等）を活用していますが、全国的な知名度アップや地域活性化に結びついていない場合や、著作権等をめぐり訴訟問題に発展した事例が存在します。

本調査研究は、全国のご当地キャラクターの制作目的、活用状況、課題等を調査し、今後の多摩・島しょ地域におけるご当地キャラクター活用の方向性を示すことを目的として実施しました。



### (2) ご当地キャラクターの現状と課題

- 全国の市区町村の約8割に、公営または民営のキャラクターが存在
- 新規作成を予定する自治体は全体の1割程度で、今後は運用に重点が置かれる
- 全国の住民の約7割が、行政によるご当地キャラクターの活用に賛成傾向（ただし、「行政がご当地キャラクターをうまく活用できていない」も5割以上）

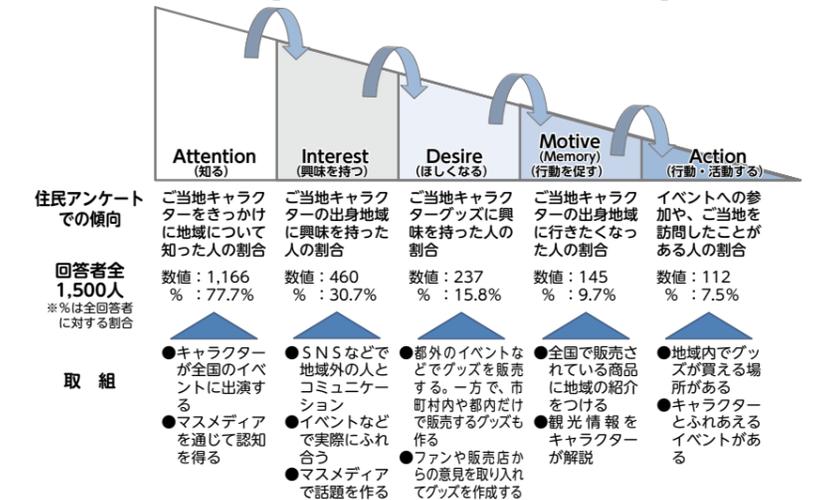
### (3) ご当地キャラクターの運用に関するマーケティングとマネジメント

#### ① マーケティングとマネジメントのあり方

AIDMAなどマーケティングのモデルを活用し、市町村が目標や取組内容を設定し、キャラクターを有効活用するための手法を提示しました。

その際、認知度の向上等には広範囲への経費投入等が必要である（右図参照）ことや、知的財産の管理等のマネジメントに一定のポイントが存在することを示しました。

#### 【AIDMAモデル（観光振興の例）】



#### ② 多摩・島しょ地域におけるご当地キャラクターの方向性

##### ア 住民の郷土愛の醸成

- 他地域で知られるよう運用し、結果的に地元住民の認知度や郷土愛を醸成
- 住民参加意識の高さを活かして、着ぐるみの貸出しや活動アイデアを収集

##### イ 都市ブランディングへのキャラクター活用

- 各市町村がイベントでのPR等で相互協力し、ノウハウ等を共有
- 新規制作を行わず既存の民間キャラクターを公認する方法も選択肢